

平成21年度事業報告書

I	事業の実施概要	1
	(1) 助成・援助事業	1
	(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～	3
	(3) 35周年記念国際シンポジウム	4
	(4) 国際交流活動	5
	(5) 制作者フォーラムの開催等	6
	(6) 定期刊行物の刊行等	6
	(7) ホームページの運営	7
	(8) 個人情報保護	7
	(9) 資産運用検討委員会	7
	(10) 新公益法人移行	8
II	処務の概要	8
	(1) 役員、評議員等に関する事項	9
	(2) 理事会および評議員会に関する事項	12

平成21年度事業報告書

I 事業の実施概要

放送は、地上波の完全デジタル化が進む一方、インターネットなどの通信メディアと連携した新しい放送サービスも始まり、本格的なデジタル放送時代を迎えようとしている。

この中で、放送文化基金は、21年度、放送文化基金賞を拡充し、テレビエンターテインメント番組の表彰を復活させたほか、放送の各種プロジェクトに対する助成・援助事業や制作者フォーラムの開催、それに設立35周年記念の国際シンポジウムの開催など、放送文化の発展に寄与する諸活動を重点的、効果的に推進した。

一方、財政面では、物価が下がり続けるデフレの影響で、低金利や円高が進行し、企業の破綻も相次いだことなどから、収入の大半を占める資産運用収入は前年度実績を下回った。

このため、事業運営にあたっては、人件費の抑制や管理間接部門の節減など経費全般にわたり効率的使用に努め、収入の範囲内で事業を実施した。

(1) 助成・援助事業

ア 平成21年度助成・援助

平成21年度助成・援助要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の2分野を対象に公募を行った。助成・援助審査委員会での審査を経て、理事会で49件6,500万円の助成・援助を決定した。

(助成・援助対象一覧 資料1)

申請および選定結果は、次の通りである。

(単位 万円)

区 分	応 募		決 定	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技術開発	46	10,573	16	2,600
人文社会・文化	99	18,972	33	3,900
合 計	145	29,545	49	6,500

「技術開発」では、高精細や3Dなど次の時代のテレビの開発を目指す研究

が表示、伝送、記憶装置などの各段階で活発に行われる一方、大量の情報が人間の生理や心理にどのような影響を与えるか明らかにしようという研究が複数採択され、高度情報化時代の人間と放送の望ましい関係を科学的に分析・解明しようという動きが広がっている。

「人文社会・文化」では、新しいメディアが次々と生まれてくる中で、放送メディアの公共性を改めて検証する研究が複数採択された。一方、放送が社会や地域の形成に果たした役割を歴史的に検証する研究やプロジェクトも複数採択されている。こうした放送の役割を証言としてまとめるプロジェクトが採択されているのも、今年度の特徴である。

助成・援助金贈呈式（国内分のみ）は平成22年3月5日に実施した。

イ 平成19年度助成・援助プロジェクト実施報告

平成19年度に助成・援助した49件のプロジェクト（技術開発15件、人文社会・文化34件）から提出された実施報告について審査委員会で検討した。

「技術開発」では、継続研究2年目の名古屋大学の菊池崇教授の「放送衛星の放射線環境予測シミュレータの開発・研究」は、太陽風放射線帯変動を1週間先まで予測できるシステムを世界で初めて開発し、放送衛星や人工衛星の安全運用に役立つと高く評価された。

「人文社会・文化」では、中国地方テレビ調査チーム（代表 渡邊浩平 北海道大学大学院教授）の「中国地方放送局の専門チャンネル化によるインパクト」は、衛星チャンネル化によって「制作と放送の分離」、「広告収入への依存」などが進んでいる中国の地方テレビ局の現状を詳細に調査分析し、興味深い結果が得られた、と高く評価された。

ウ 助成・援助「研究報告会」

平成19年度に助成した研究の人文社会・文化部門から『アメリカにおける地上デジタル移行完了過程の研究』（清原聖子 明治大学専任講師）と技術開発部門から『子どもはTV映像をどう認知するのか？』（開 一夫 東京大学大学院准教授）について、研究者による成果報告を平成21年11月12日、東京・紀尾井町の千代田放送会館で実施した。

参加者は、放送関係者、研究者などおよそ120名。

発表内容は下記の通り。

○第1部 清原聖子氏

2009年6月に完了したアメリカの地上デジタル移行について、デジタルテレビ・コンバータ・ボックス・クーポン・プログラムの実施過程における

非営利団体の役割を紹介した。

○質疑・応答

「報道発表にはほとんどなかった非営利団体の役割について良く理解できた」、「本研究の成果を今後の日本の対応方針に役立ててほしい」、「メディア接触の権利に対してのアメリカ人と日本人のメンタリティーの差を感じた」などの意見があった。

○第2部 開一夫氏

小さな乳幼児や小学生はどのようにTVを認知しているのか、EEG(脳波計)を使った認知神経学的アプローチに基づく研究について紹介した。

○質疑・応答

「デジタル化で高画質や3D、インタラクティブTV等が実現しているが、どのような番組を作ればよいかの指標になるものがあれば今後役立つと思う」、「インターネット、ゲーム等の子どもへの悪影響などにも研究を拡げてほしい」等の意見、要望があり、活発な意見交換がされた。

(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第35回放送文化基金賞

第35回放送文化基金賞は、番組部門に「テレビエンターテインメント番組」を復活させ、平成20年度中に放送された、優れた放送番組(番組部門)と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ(個人・グループ部門)を対象に、合わせて30件を表彰した。

(受賞一覧 資料2)

応募・推薦、表彰の状況は次のとおりである。

部 門	領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
番組部門	テレビドキュメンタリー	83	5	本賞1、優秀賞1、番組賞3
	テレビドラマ	41	4	本賞1、優秀賞1、番組賞2
	テレビエンターテインメント	66	3	本賞1、優秀賞1、番組賞1
	ラジオ	37	3	本賞1、優秀賞該当なし、番組賞2
	個別分野	—	6	番組部門受賞作品から選定
個人・グループ部門	放送文化	20	5	—
	放送技術	8	4	—
合 計		255	30	

番組部門の本賞の賞金は200万円、優秀賞は80万円、各番組賞は、50万円、個別分野賞は20万円。個人・グループ部門の賞金は50万円。

本賞を受賞したのは、テレビドキュメンタリー番組では、原爆で被災した長崎の直後を密かに撮影した米軍カメラマンが辿った人生を記録した『NHKスペシャル 解かれた封印～米軍カメラマンが見たNAGASAKI～』（NHK福岡放送局）、テレビドラマ番組では、『フジテレビ開局50周年記念ドラマ 風のガーデン』（フジテレビジョン）、テレビエンターテインメント番組では、『ハイビジョン特集 築地市場大百科』（NHK）、ラジオ番組では、『震災被害を乗り越えて IBCラジオスペシャル「希望のイワナ」』（IBC岩手放送）である。

贈呈式は、6月26日に千代田放送会館で行い、受賞記念パーティーをルポール麹町で行なった。

イ 他の賞への参加

アジア太平洋放送連合（ABU）番組コンクールと第36回日本賞教育コンテンツ国際コンクール（主催／NHK）に参加した。

ABU番組コンクールでは、ラジオとテレビのドラマ番組の最優秀作品『A Heroic Monk in Earthquake』（中央人民ラジオ／中国）、『大河ドラマ「天地人～第2回「泣き虫 与六」』（日本放送協会／日本）にそれぞれ賞を贈呈した。

日本賞では、「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『ねえ、知ってる？』（スワジランドテレビ／スワジランド）に対して放送文化基金賞を贈呈した。

なお、第35回（平成20年）の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞したシネリ プロダクション（スリランカ）の『そこに道はある』は番組として完成し、今回の日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

（表彰結果 資料3）

（3）35周年記念国際シンポジウム

○設立35周年記念事業として企画した国際シンポジウム「テレビがつなぐ東アジアの市民 ～交流から対話にむけて」（座長 岩渕功一早大教授）を7月17日（金）、日本薬学会・長井記念ホール（渋谷区）で実施した。

○中国と韓国からゲストを迎え、当日の参加者は研究者、学生を中心に、放送関係者を含むおよそ140名。

○シンポジウムの主な構成

▼特別講演「東アジアの中の日本—その過去と未来」

田中優子（法政大学教授）

▼ 第1部【日中韓番組交流の現状】

進行：丹羽美之（東京大学大学院准教授）

①基調報告：毛利嘉孝（東京藝術大学准教授）

＜日中番組交流の現状＞

②講演：Song ByeongJoon(Group 8 代表,韓国ドラマ制作協会副会長)

＜『花より男子』にみるドラマ制作から海外進出までの成功戦略＞

▼ 第2部【共同調査からみる日中韓視聴者比較】

①インターネット・電話による市民の意識調査（日中韓3国、計3千人）の分析と報告：藤田真文（法政大学教授）

②視聴者へのインタビュー調査の分析と報告：

伊藤 守（早稲田大学教授）

Jin Ying（中国社会科学院助理教授／中国）

Lee DongHoo（仁川大学副教授／韓国）

③調査結果のまとめ（藤田真文、伊藤守、Jin Ying、Lee DongHoo）

▼ 第3部【テレビ文化を通じた対話に向けて】

視聴者、制作者、研究者によるパネルディスカッション

コーディネーター：岩渕功一（早稲田大学教授）

パネリスト：安部裕子（韓国エンターテインメントライター）

Wu YongMei（北京外語大学准教授）

今野 勉（演出家）

Song ByeongJoon（Group 8 代表）

中園ミホ（脚本家）

○シンポジウムの模様は、8月23日（午後6～7時）『日曜フォーラム』、（NHK 教育チャンネル）で放送された。

○当日の記録は22年2月1日に報告書として700部刊行、参加者を含む関係先に配布した。

（4）国際交流活動

○第46回ABU総会および番組委員会への参加

ABU（アジア太平洋放送連合）の第46回総会と関連の会議が9月30日から10月6日まで、モンゴルの首都ウランバートルで開催された。加盟38の国と地域から、46放送機関の代表者や責任者などおよそ270名が参加し、放送文化基金からは成田専務理事が出席した。

総会に先立って開かれた番組委員会で、7月に放送文化基金設立35周年を記念した国際シンポジウムを開催したこと、また助成援助などを通じてABUとの協力関係を強化していることなどを報告した。今年のABU総会で

は、地球温暖化にアジアの放送局がどう取り組むべきかをめぐり活発な意見交換が行なわれ、ABU加盟の放送局はすべての番組ジャンルを通じ、地球温暖化関連の情報を優先して放送し、開発途上国に多い小規模な放送局に対し、地球温暖化関連番組を積極的に提供していくなどを内容とするウランバートル宣言を採択した。

(5) 制作者フォーラムの開催等

ア 制作者フォーラム

NHK、民放、制作プロダクションなど、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的として、平成21年度は2地区で現地実行委員会と共催実施した。内容は、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画による講演会等が中心だった。

○北日本制作者フォーラム in あおもり（北海道・東北地区）

＜北海道と東北の民放とNHK、計40局＞

日 時 平成21年11月6日（金）、11月7日（土）

場 所 青森市男女共同参画プラザホール／青森市

参加者 延べ140名

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

＜九州・沖縄の民放とNHK、計35局＞

日 時 平成21年11月21日（土）

場 所 NHK福岡放送局「ハイビジョンホール」／福岡市

参加者 延べ60名

イ 話題の放送番組を見る会・語る会（青森市）

北日本制作者フォーラム in あおもりの開催に合わせて実施したもので、地方での開催は高松に続き6回目となる。

- ・視聴番組は『どさんこドキュメント 命の値段 ～がん患者、闘いの家計簿～』（勝寫早苗氏／札幌テレビ放送）と SBS スペシャル『日本兵サカイタイゾーの真実 ～写真の裏に残した言葉～』（岸本達也氏／静岡放送）
- ・会場では、制作者の勝寫氏と岸本氏をゲストに迎え、音好宏上智大学教授の進行により、会場参加者との意見交換を行った。

(6) 定期刊行物の刊行等

“放送文化基金賞”と“助成・援助”を中心とした広報誌「HBF報（放送文化基金報）No. 72」を9月に刊行した。

また、「制作者フォーラム」などの事業の実施報告や助成・援助プロジェクト

トの成果報告などを紹介する「HBF NEWS No. 16、17」を2回（4月、12月）発行した。

（7）ホームページの運営

事業活動全般について、随時更新を行って内容の充実を図り、情報公開に努めた。

＜日本語版内容＞

助成・援助の決定・および成果の報告／申込書及び報告書類フォーマットファイル／助成・援助対象のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧・申込書フォーマットファイル・実施細則／35周年国際シンポジウム開催予告と結果報告／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／話題の番組を見る会・語る会の開催予告と結果報告／広報印刷物の紹介／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿 等

アクセス件数 約 50,887 件（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

＜英語版内容＞

助成・援助の募集案内、助成したプロジェクトの活動や成果の紹介、日本賞・ABU賞への参加について 等

アクセス件数 約 5,472 件（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（8）個人情報の保護

当基金の保有する個人情報保護のため、安全管理対策や問い合わせ窓口の設置などを定めた個人情報保護方針および安全管理規程を策定し、個人情報保護方針をホームページで公開している。

基金が持つ個人情報に対し本人から開示等の請求・問い合わせはなかった。

（9）資産運用検討委員会

ア 目 的

当基金では、「資産運用方針」に基づき資産運用を進めているが、特に債券市場の分析・機関投資家の動向等について幅広く情報の収集に努め、資産運用の専門性をより一層向上させるため、部外の専門家を含めた諮問的機関として「資産運用検討委員会」を年間3回開催した。

イ 委 員

青木 昭憲	（大和住銀投信投資顧問(株)法人部次長）
大中道康浩	（大和住銀投信投資顧問(株)チーフエコノミスト）
横山 英士	（大和住銀投信投資顧問(株)ファンドマネージャー）
松原 克美	（放送文化基金会計顧問・公認会計士）

磯井 正義 (放送文化基金監事)

塚田 祐之 (放送文化基金監事・NHK総合企画室〔経営計画〕局長)
(幹 事)

成田 千代治 (放送文化基金専務理事)

ウ 意見交換の主なテーマ

- ・ 日米を中心とした金利や為替等の経済政策や見通し並びに債券市場の動向を踏まえた資産運用ならびに保有債券の分析等について。

(10) 新公益法人移行

○ 新公益法人移行

第85回評議員会(平成21年12月10日)において、当基金は公益財団法人への移行を目指すことを決議した。

移行申請は、平成22年12月を目途とする。

○ 新公益法人移行検討委員会

公益法人制度改革関連法令の施行(平成20年12月1日)に伴い、公益財団法人への円滑な移行に備え検討委員会を設置し、年間2回開催した。

(委員長)

塩野 宏 (放送文化基金理事)

(委 員)

塚田 祐之 (NHK 総合企画室局長、放送文化基金監事)

藤井 宏昭 (国際交流基金顧問、放送文化基金評議員)

松原 克美 (公認会計士、放送文化基金会計顧問)

柳瀬 康治 (丸の内中央法律事務所・弁護士)

成田 千代治 (放送文化基金専務理事・事務局担当)

(主な検討事項)

- ・ 当基金の目的・事業、基本財産の規定等について
- ・ 定款変更案について
- ・ 公益認定等委員会事務局への事前相談内容について
- ・ 22年度収支予算の事業別区分経理について 等

II 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 役員の選任等

(ア) 第320回理事会(平成21年4月1日)において、理事長の互選を行い、引き続き河竹登志夫理事を理事長に選任した。河竹理事長から成田千代治理事を専務理事に指名した。

(任期 平成21年4月1日から平成23年3月31日まで)

(イ) 第85回評議員会(平成21年12月10日)において、塚田祐之氏を監事に再任した。

(任期 平成21年12月15日から平成23年12月14日まで)

(ウ) 第86回評議員会(平成22年3月4日)において、谷村啓氏を理事に新任し、河竹理事長から専務理事に指名した。

(任期 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

成田千代治理事(専務理事)は平成22年3月31日をもって退任。

また、同評議員会において、監事に、磯井正義氏を再任、石田研一氏を新任した。

磯井 正義 氏

(任期 平成22年3月15日より平成24年3月14日まで)

石田 研一 氏

(任期 平成22年3月5日より平成23年12月14日まで)

塚田祐之監事は平成22年3月4日をもって退任。

イ 評議員の委嘱等

(ア) 第320回理事会(平成21年4月1日)において、任期満了につき次のとおり再委嘱した。

中村 桂子氏 (JT生命誌研究館館長)

(任期 平成21年4月2日から平成23年4月1日まで)

毛利衛評議員は任期満了に伴い、平成21年2月23日付で退任。

(イ) 第321回理事会(平成21年5月28日)において、宇都宮敏男評議員は任期満了に伴い平成21年5月26日付で退任。

(ウ) 第322回理事会(平成21年7月9日)において、任期満了に伴い次の通り再委嘱した。

五代 利矢子 氏 (評論家)

(任期 平成21年7月13日から平成23年7月12日まで)

羽鳥 光俊 氏 (東京大学名誉教授)

(任期 平成21年7月26日から平成23年7月25日まで)

(エ) 第323回理事会(平成21年10月19日)において、次のとおり新たに委嘱した。

青木 保 氏 (青山学院大学大学院特任教授)

(任期 平成21年10月20日から平成23年10月19日まで)

また同理事会において、任期満了に伴い次のとおり再委嘱した。

藤井 宏昭 氏 (国際交流基金顧問)

(任期 平成21年10月17日から平成23年10月16日まで)
川口幹夫評議員は、任期満了に伴い平成21年10月22日付で退任。
(オ) 第324回理事会(平成21年12月10日)において、次のとおり新たに委嘱した。

高島 肇久 氏 (日本国際放送社長)

(任期 平成21年12月11日から平成23年12月10日まで)
森繁久彌評議員は、平成21年11月10日に逝去された。

(カ) 第325回理事会(平成22年2月1日)において、次のとおり新たに委嘱した。

児玉 清 氏 (俳優)

遠山 敦子 氏 (新国立劇場運営財団理事長)

(任期 いずれも平成22年2月2日から平成24年2月1日まで)
また同理事会において、任期満了に伴い次のとおり再委嘱した。

池辺 晋一郎 氏 (作曲家)

今井 義典 氏 (日本放送協会副会長)

金田 新 氏 (日本放送協会専務理事)

福地 茂雄 氏 (日本放送協会会長)

(任期 いずれも平成22年2月22日から平成24年2月21日まで)
天城勲評議員は、任期満了に伴い、平成22年2月3日付で退任。

(キ) 第327回理事会(平成22年3月25日)において、任期満了に伴い次のとおり再委嘱した。

小田島 雄志 氏 (東京大学名誉教授)

浜田 純一 氏 (東京大学総長)

(任期 いずれも平成22年4月1日から平成24年3月31日まで)

広瀬 道貞 氏 (日本民間放送連盟会長)

(任期 平成22年5月26日から平成24年5月25日まで)

ウ 審査委員の委嘱

(ア) 320回理事会(平成21年4月1日)において、審査委員会委員を次のとおり新たに委嘱した。

助成・援助審査委員会委員(人文社会・文化)

白石 さや 氏 (東京大学大学院教育学研究科教授)

(任期 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

箕浦康子委員は、平成21年3月31日退任

(イ) 第321回理事会(平成21年5月28日)において、審査委員会委員を次のとおり新たに委嘱した。

助成・援助審査委員会委員(人文社会・文化)

黒木 隆男 氏 (日本放送協会理事)

(任期 平成21年5月29日から平成22年3月31日まで)

後藤雅実委員は、平成21年5月28日退任

(ウ) 第327回理事会(平成22年3月25日)において、審査委員会委員を次のとおり新たに委嘱した。

助成・援助審査委員会

<技術開発>

審査委員長 羽鳥 光俊 氏 (東京大学名誉教授)

審査委員 今井 秀樹 氏 (中央大学教授)

大塚 隆広 氏 (テレビ朝日取締役)

白井 克彦 氏 (早稲田大学総長)

永井 研二 氏 (日本放送協会専務理事・技師長)

<人文社会・文化>

審査委員長 浜田 純一 氏 (東京大学総長)

審査委員 黒木 隆男 氏 (日本放送協会理事)

黒崎 政男 氏 (東京女子大学教授)

佐藤 卓己 氏 (京都大学大学院准教授) 新任

白石 さや 氏 (東京大学大学院教授)

藤井 宏昭 氏 (国際交流基金顧問)

放送文化基金賞審査委員会

審査委員長 小田島雄志 氏 (東京大学名誉教授)

審査委員 金田一秀穂 氏 (杏林大学教授) 新任

五代利矢子 氏 (評論家)

玉川 寿夫 氏 (日本民間放送連盟専務理事)

長谷川豊明 氏 (元日本放送協会専務理事・技師長)

日向 英実 氏 (日本放送協会専務理事)

吉田 喜重 氏 (映画監督)

(任期 いずれも平成22年4月1日から平成24年3月31日まで)

以上の結果、平成22年3月31日現在の役員、評議員、審査委員は、資料4のとおりである。

(2) 理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 事
平成 21. 4. 1 (第 3 2 0 回)	・ 理事長の互選について ・ 平成 2 1 年度一般助成・援助対象の募集について ・ 平成 2 1 年度資産運用計画について ・ 「研究報告会」の実施結果について
平成 21. 5. 28 (第 3 2 1 回)	・ 平成 2 0 年度事業報告書および財務諸表について ・ 第 3 5 回「放送文化基金賞」表彰対象について
平成 21. 7. 9 (第 3 2 2 回)	・ 総務省業務検査結果について
平成 21. 10. 19 (第 3 2 3 回)	・ 役員及び評議員の報酬規程について ・ (新公益法人移行) 放送文化基金の目的、事業について ・ 平成 2 1 年度事業活動収支見込について ・ 3 5 周年記念国際シンポジウム開催結果について
平成 21. 12. 10 (第 3 2 4 回)	・ (新公益法人移行) 申請にあたっての基本的事項について ・ 平成 2 2 ～ 2 5 年度収支見通しについて ・ 第 3 6 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 平成 1 9 年度助成・援助プロジェクトの実施報告について ・ 「制作者フォーラム」と「話題の放送番組を見る会・語る会」の実施結果について
平成 22. 2. 1 (第 3 2 5 回)	・ 平成 2 1 年度助成・援助の実施について ・ 平成 2 2 ～ 2 3 年度予算編成の考え方について
平成 22. 2. 25 (第 3 2 6 回)	・ 平成 2 2 年度事業計画および収支予算の編成について ・ 役員報酬規程の一部改定について
平成 22. 3. 25 (第 3 2 7 回)	・ 平成 2 2 年度資産運用計画について ・ (新公益法人移行) 新定款について (継続審議事項)

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
平成 21. 6. 4 (第 8 4 回)	・ 平成 2 0 年度事業報告書および財務諸表について
平成 21. 12. 10 (第 8 5 回)	・ 役員の選任について ・ 新公益法人移行申請の基本的事項について
平成 22. 3. 4 (第 8 6 回)	・ 平成 2 2 年度事業計画および収支予算について ・ 役員の選任について ・ 役員報酬規程の一部改定について

平成21年度 助成・援助対象一覧

区 分	件 数	助成・援助額
	件	万円
全 体 (うち海外)	4 9 (4)	6, 5 0 0 (5 3 0)
技 術 開 発 (うち海外)	1 6 (0)	2, 6 0 0 (0)
人文社会・文化 (うち海外)	3 3 (4)	3, 9 0 0 (5 3 0)

平成21年度 助成・援助対象一覧

技術開発

テ マ	申 込 者	助成・援助額 (万円)
スーパーハイビジョンを目指したシート状ディスプレイの基礎検討	高知工科大学 ナノデバイス研究所 所長・教授 平尾 孝	180
磁壁電流駆動を利用した高密度ナノワイヤメモリの開発	茨城大学 工学部 准教授 小峰 啓史	140
マイクロ波フィルタの自動特性調整、製作に関する技術開発	東北工業大学 工学部 教授 野本 俊裕	80
超大容量・大規模フォトニックネットワークにおける光領域での信号波形等化	東京大学大学院 工学系研究科 講師 五十嵐 浩司	200
インターネット放送のためのネットワークポロジ-推定技術	早稲田大学大学院 国際情報通信研究科 教授 田中 良明	140
オーロラの全天3次元映像化の研究	オーロラ立体映像化研究グループ 代表 片岡 龍峰 (東京工業大学 特任助教)	200
頭外定位音像と映像の融合に関する研究 ～将来のウェアラブルテレビのための基礎的研究～	東京都市大学 環境情報学部 教授 宮坂 榮一	160
フィールド・サラウンド録音における音源ごとの適切なマイキングの究明	フィールド・サラウンド録音研究グループ 代表 土方 裕雄	100
遺跡発掘による出土遺物の計測・整理・デジタルアーカイブに関する基礎的研究	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授 土井 章男	120
デジタルテレビ放送受信機における知的画質改善アルゴリズムの研究	名古屋工業大学 情報工学専攻 教授 桜井 優	200
自然言語処理技術を用いたメディア注目度指標の自動構成と国内外メディアへの適用	人間文化研究機構 国文学研究資料館 准教授 野本 忠司	140
放送映像と実世界ウェブコンテンツの統合によるニュース閲覧インタフェースの開発	メディアウォーカー開発グループ 代表 井手 一郎 (名古屋大学大学院 准教授)	200
少数サンプルによる個人嗜好マップ構成とその高精度映像推薦への応用	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 講師 延原 肇	120
高齢社会に対応したカラー情報提供の基盤となる高齢者の色の見えの個人差の研究	高齢者の色覚特性研究グループ 代表 山内 泰樹 (山形大学大学院 准教授)	250
立体映像の提示方式の与える生体影響の調査	早稲田大学大学院 国際情報通信研究科 教授 河合 隆史	250
情報の過剰表示による記憶崩壊メカニズムの解明	自然科学研究機構 生理学研究所 研究員 松吉 大輔	120

計16件 2,600万円

人文社会・文化

テ マ	申 込 者	助成・援助額 (万円)
EUにおける視聴覚メディア政策の展開と課題	立命館大学 政策科学部 教授 安江 則子	70
日本におけるメディア・ネットワークの整備と文化資源の系列化に関する研究	上智大学 文学部 教授 音 好宏	140
映像コンテンツ政策の効果論 (主に海外展開と人材育成論について)	映像コンテンツ政策効果研究会 代表 内山 隆 (青山学院大学 教授)	100
地上放送デジタル化の実相と諸課題 ー東北地区および独立局の全局調査	立命館大学 産業社会学部 教授 金山 勉	80
情報通信法時代のIPTVに関する国際比較研究	国立情報学研究所 助教 上田 昌史	100
放送コンテンツのインターネット配信に関する倫理的な問題の研究	放送大学ICT活用・遠隔教育センター 教授 児玉 晴男	80
複合的メディア環境における知識ギャップ仮説再考	「メディアと世論」研究会 代表 斉藤 慎一 (東京女子大学 教授)	180

テーマ	申込者	助成・援助額(万円)
放送・通信の融合時代における政見放送のあり方と選挙関係放送・通信規制の再検討	九州国際大学 法学部 教授 湯浅 壘道	80
ローカルテレビ局による地域動画情報発信モデルの確立に向けて	法政大学 社会学部 教授 藤田 真文	100
韓国における日本製テレビ番組の流通に関する研究	佛教大学 社会学部 准教授 大場 吾郎	60
参与観察法による、グローバルTVジャーナリズムの編集方針の比較研究	十文字学園女子大学 社会情報学部 准教授 鈴木 弘貴	120
日中関係・中台関係におけるフェニックステレビの役割	早稲田大学教育学術院 非常勤講師 張 剣波	100
戦前のNHKラジオ番組『子供の時間』に見る音楽番組の変遷ー放送黎明期から『コドモのテキスト』に至る童謡を中心にー	鶴見大学短期大学部 専任講師 大地 宏子	40
高齢者のQOLを豊かにする過去のテレビ番組利用の可能性:回想法への応用の試み	テレビ番組研究会 研究員 大坪 寛子(慶應義塾大学 研究員)	60
テレビドラマ『姿三四郎』が中国社会に与えた影響に関する研究	人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 准教授 郭 南燕	100
インドネシアにおけるラジオ放送による公共圏の形成とローカル・アイデンティティの構築	VCSメディア・スタディーズ・グループ 河原 大輔(ロチェスター大学大学院 博士課程)	80
放送脚本の収集・保存およびデジタル化による社会還元のための調査・研究	放送脚本デジタル化研究会 吉見 俊哉(東京大学大学院 教授)	150
映像記録シリーズ『放送人の証言』作製作業	放送人の会 代表幹事 今野 勉	120
証言の収集・分析を中心とした『教育放送75年の記録』の編纂	教育放送研究会 代表 市村 佑一(江戸川大学 学長)	120
伝統芸能放送85年史の調査・記録・刊行	伝統芸能放送85年史編纂プロジェクト 代表 飯沼 一之	120
第30回「地方の時代」映像祭の記念シンポジウム・映像祭実施および記念誌発行事業	「地方の時代」映像祭実行委員会事務局 プロデューサー 市村 元(関西大学 客員教授)	120
多業種に渡る女性放送人、計40人による連続セミナーと、成果の書籍化	日本女性放送者懇談会 会長 糸林 薫	100
地方放送局制作番組の国際版制作による発展途上国への番組提供事業	財団法人 放送番組国際交流センター 専務理事 村神 昭	100
インドにおける日本伝統文化と現代サブカルチャの「ワークショップ」と「放送」を通じた日本文化の理解促進	インドにおける日本の伝統文化と現代サブカルチャのワークショップ実行プロジェクト 代表 安部 道(NHKインターナショナル 理事)	100
将来を担う子ども達への放送文化啓蒙 ～親子向け「出前授業」～	財団法人 放送番組センター 常務理事 松村 直央	100
NHK交響楽団北米公演2011	財団法人 NHK交響楽団 理事長 野島 直樹	270
伝統芸能「文楽」を地方の人達に鑑賞していただく機会をつくる文楽特別公演	財団法人 文楽協会 理事長 山口 昌紀	180
懸賞公募「創作テレビ・ラジオドラマ大賞」と年2回の公開講座開催による新人放送作家の発掘と育成	社団法人 日本放送作家協会 理事長 市川 森一	250
ブラジル日本移民史料館所蔵レコード・フィルムの修復、保存と内容分析に関する研究	早稲田大学 移民・エスニック文化研究所 所長 森本 豊富	150
良質の番組をつくるためのワークショップ(ABUメンバー対象の国内ワークショップ)(マレーシア)	アジア太平洋放送連合(ABU) 番組局長 中村 建哉	180
放送技術者・事業計画責任者のためのプロジェクト・マネジメント研修(マレーシア)	アジア太平洋放送連合(ABU) 技術局長 Sadhu Sharadindoo	150
NHKテレビ番組の翻訳と吹き替え:日本政府の文化無償協力により提供された作品をクメール語へ(カンボジア)	カンボジア国営テレビ 副局長 Pang Nath	100
学生と教育者のYouTube活用:大学における新放送文化を理解するための調査研究(韓国)	国際基督教大学 教養学部 教授 Jung Insung	100

第35回「放送文化基金賞」受賞一覧

資料2

部 門		賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績
組 部 門	テレビドキュメンタリー番組	本 賞 (200万円)	NHK福岡放送局	NHKスペシャル 解かれた封印 ～米軍カメラマンが見たNAGASAKI～
		優 秀 賞 (80万円)	NHK	ハイビジョン特集 ヤノマミ ～奥アマゾン 原初の森に生きる～
		(50万円)	NHK	NHKスペシャル 職業“詐欺”～増殖する若者犯罪グループ～
		テレビドキュメンタリー番組賞 (50万円)	NHK、NHKエンタープライズ、テムジン	ハイビジョン特集 “認罪”～中国 撫順戦犯管理所の6年～
		(50万円)	毎日放送	映像'08 家族の再生 ～ある児童養護施設の試み～
	テレビドラマ番組	本 賞 (200万円)	フジテレビジョン	フジテレビ開局50周年記念ドラマ 風のガーデン
		優 秀 賞 (80万円)	NHK広島放送局	広島発 特集ドラマ 帽子
		(50万円)	NHK	特集ドラマ お買い物
		テレビドラマ番組賞 (50万円)	TBSテレビ	シリーズ激動の昭和 あの戦争は何だったのか 日米開戦と東条英機
	テレビエントメ番組	本 賞 (200万円)	NHK、ヴィジュアルフォークロア、NHKエンタープライズ	ハイビジョン特集 築地市場大百科
		優 秀 賞 (80万円)	中部日本放送	スジナシ ～第212回 田中圭～
		テレビエンターテインメント番組賞 (50万円)	毎日放送	～たむらけんじの学校に行こっ！～イマドキのセクション
	ラジオ番組	本 賞 (200万円)	IBC岩手放送	震災被害を乗り越えて IBCラジオスペシャル 「希望のイワナ」
		優 秀 賞 (80万円)	該当なし	
		(50万円)	NHK	サウンドスケープ みなと三景音楽散歩 イコハマ湾岸ソウルフルワールド
		ラジオ番組賞 (50万円)	北日本放送	A列車に乗った男 ～原信夫、半生を語る～
	個別分野	演 技 賞 (20万円)	久米 明	「お買い物」の演技
		演 技 賞 (20万円)	渡辺 美佐子	「お買い物」の演技
		企 画 賞 (20万円)	大塚 敦、弘 理子	「築地市場大百科」の企画
		制 作 賞 (20万円)	加藤 久智	「希望のイワナ」の制作
		映 像 賞 (20万円)	菅井 禎亮	「ヤノマミ」の映像
		特 別 賞	緒形 拳	「風のガーデン」「帽子」の演技
個人・グループ部門	放送文化	(50万円)	守分 寿男 (演出家・映像プロデューサー)	テレビ番組の優れた演出による放送文化への長年にわたる貢献
		(50万円)	長谷川 勝彦 (フリーアナウンサー)	NHKスペシャルをはじめとするドキュメンタリー番組のナレーション
		(50万円)	関 芳樹 (IBC岩手放送 ラジオセンター 専任部長)	地域に根ざした優れたラジオ・テレビドキュメンタリー番組の制作
		(50万円)	塩田 純 (NHK チーフ・プロデューサー)	テレビドキュメンタリー番組のプロデューサーとしてのめざましい活躍
		特 別 賞	筑紫 哲也 (ニュースキャスター)	長年にわたり「NEWS23」キャスターとして独自の視点でニュースと人々をつなげた功績
	放送技術	(50万円)	超低遅延放送素材伝送用コーデックおよび 内蔵小型FPU開発チーム 代表 牧野 鉄雄 (日本テレビ放送網)	超低遅延放送素材伝送用コーデックおよび 内蔵小型FPUの開発
		(50万円)	高機能マイクロホン開発グループ 代表 小野 一穂 (NHK)	高機能マイクロホンの開発
		(50万円)	西川 寛 (フジテレビジョン)	映像ダイナミックレンジ補正装置「D-Rex」の開発
		(50万円)	ミリ波ハイビジョンワイヤレスカメラ 開発グループ 代表 池田 哲臣 (NHK)	高画質・低遅延ミリ波ハイビジョンワイヤレスカメラの開発

*番組部門の各番組賞と個人・グループ部門は、受付順による。

他の賞への参加結果について

1 2009年ABU番組コンクール

＜参加：46 機関／70 番組(ラジオドラマ)、122 番組(テレビドラマ)＞

表 彰 日	平成21年10月5日
場 所	モンゴル・ウランバートル
受賞作品	ラジオ部門 ドラマ番組 (賞金 2,000USドル) 『A Heroic Monk in Earthquake』 (中央人民ラジオ／中国)
	テレビ部門 ドラマ番組 (賞金 2,000USドル) 大河ドラマ『天地人～第2回「泣き虫 与六」』 (日本放送協会／日本)

2 第36回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール ＜参加：196 機関＞

表 彰 日	平成21年10月28日
場 所	NHK放送センター 1階101スタジオ
受賞作品	番組企画部門＜参加：23 機関、30 企画＞ 放送文化基金賞 (賞金 8,000USドル) スワジランドテレビ／スワジランド ウェリレ・マスク氏 『ねえ、知ってる？』

※番組は2010年開催の日本賞で上映される予定

財団法人 放送文化基金
役員、評議員、審査委員 一覧

○役 員

理 事 長(非常勤)	河 竹 登 志 夫	早稲田大学名誉教授
理 事(非常勤)	塩 野 宏	東京大学名誉教授
理 事(非常勤)	末 松 安 晴	高知工科大学顧問
理 事(非常勤)	高 野 悦 子	岩波ホール総支配人
理 事(非常勤)	櫻 井 孝 穎	第一生命保険相談役
専務理事(常 勤)	成 田 千 代 治	元日本放送協会監事
監 事(非常勤)	磯 井 正 義	元郵政省関東電気通信監理局長
監 事(非常勤)	石 田 研 一	日本放送協会経営企画局長

○評議員

青 木 保	青山学院大学大学院特任教授
池 辺 晋 一 郎	作曲家
井 上 弘	TBSホールディングス会長
井 原 理 代	日本放送協会経営委員会委員
今 井 義 典	日本放送協会副会長
小 田 島 雄 志	東京大学名誉教授
金 澤 薫	日本電信電話副社長
金 田 新	日本放送協会専務理事
五 代 利 矢 子	評論家
児 玉 清	俳優
小 林 陽 太 郎	富士ゼロックス相談役最高顧問
小 丸 成 洋	日本放送協会経営委員会委員長
高 島 肇 久	日本国際放送社長
遠 山 敦 子	新国立劇場理事長
中 村 桂 子	JT生命誌研究館館長
服 部 禮 次 郎	セイコーホールディングス名誉会長
羽 鳥 光 俊	東京大学名誉教授
浜 田 純 一	東京大学総長
平 岩 弓 枝	作家、劇作家
広 瀬 道 貞	日本民間放送連盟会長
福 地 茂 雄	日本放送協会会長
藤 井 宏 昭	国際交流基金顧問
藤 村 志 保	女優

○助成・援助審査委員

技 術 開 発	委員長／	羽 鳥 光 俊	東京大学名誉教授
	委 員／	今 井 秀 樹	中央大学教授
		大 塚 隆 広	テレビ朝日取締役
		白 井 克 彦	早稲田大学総長
		永 井 研 二	日本放送協会専務理事・技師長

人 文 社 会 ・ 文 化	委員長／	浜 田 純 一	東京大学総長
	委 員／	黒 木 隆 男	日本放送協会理事
		黒 崎 政 男	東京女子大学教授
		五 代 利 矢 子	評論家
		白 石 さ や	東京大学大学院教授
		藤 井 宏 昭	国際交流基金顧問

○放送文化基金賞審査委員

委員長／	小 田 島 雄 志	東京大学名誉教授
委 員／	五 代 利 矢 子	評論家
	玉 川 寿 夫	日本民間放送連盟専務理事
	常 盤 新 平	作家
	長 谷 川 豊 明	元日本放送協会専務理事・技師長
	日 向 英 実	日本放送協会専務理事
	吉 田 喜 重	映画監督

(平成22年3月31日)